

銷夏の詩

袁

枚

衣冠著
半年近

水雲深
知花抱
眠る

平生自
想無官
樂

第一人
騎
六月
天

【作者】袁枚（一七一六～一七九七年）清朝中国の文人・詩人。食通として名高い。字は子才、号を簡齋、別の号として隨園老人という。

現在の浙江省杭州にある錢塘が出身地である。十二歳で生員に合格し一七三八年に舉人となり、翌年には二十四歳で進士に及第した。しばらく翰林院に在籍してから公務につくが、若さに不安を持たれたせいか妬みのためか、地方しか任せられず、江蘇省溧水の県令に出されてから以後は江浦・流陽など、地方を転々する。田舎まわりの生活に嫌気がさした彼は三十八歳の時に感を辞し、其のの生涯職につかなかった。

【語釈】*鎖夏・「消夏」と同じで夏の暑さをしのぐこと。*六月の天・旧曆故（現在の太陽曆では八月）、蒸し暑い季節

【通釈】平日の昼下がり、草原に寝転んで大空に浮かぶ雲を眺め、川のせせらぎを聞きながら、花の香りに包まれてうとうと眠る。嘗て夢にまで見ていた自由な生活を今満喫している。何よりも人に自慢したいのは、現役時代さんさん苦勞させられた

真夏の暑さが今では却って心地よいことだ。鎖夏詩は作者四十歳の時の詩です。